

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わいわい子ども教室那覇校		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 20日		R8年 3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	R8年 3月 10日		R8年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 23日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりに合わせた支援を提供し、柔軟に対応できる。 個別の療育を実施し、細やかな支援を行う。	利用者の状態やペースに合わせて、支援の内容を工夫して準備している。 学習と活動の時間配分を臨機応変に対応し、毎回成功体験ができるように心掛けている。	利用者から定期的にあセスメントを取り、活動の要望を聞き取る。 支援や課題に合わせた教材、玩具を充実させる。
2	学校との連携を密にとり、登校支援や進級・進学希望を共有し、支援内容に活かすことができる。	日々の利用者の様子、学習進捗を学校と共有し、安心して本人のペースで登校できるように支援する。 保護者との面談の機会を増やすことで、一貫した支援が出来る。	療育・支援を受けて進学した利用者の体験を活かして、今後の支援に反映させる。 家庭の負担軽減につながるように、保護者に情報を共有する。
3	社会性・自己決定・金銭感覚を養う目的で、屋外活動を行っている。	店舗での買い物を実施し、店員とのやり取りやセルフレジの操作、モノレールでの切符の買い方など、日常生活に必要なスキルを身につける。	利用者主体で活動を計画、取り組み・フィードバックが出来るような機会を作る工夫をする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職による支援。	OT・PT・STなどの専門職による直接的な支援が望ましいが、確保できていない。	必要な人材が確保できるまで、現場の支援者が研修を重ね支援に取り組んでいる。
2	個別短時間の支援なので、他者との関わりを支援者主導のもと、小集団で学んでもらうしかないこと。	不登校児が多いので、集団生活が苦手である。 コミュニケーションスキル・共感力・対話力が低いので、集団生活を実施するまでに時間がかかる。	利用者に共通する趣味嗜好を聞き取り、不定期でも集団活動を実施できるように提案する。 支援者は、やり取りの術を向上させる。
3	地域や地域児童との交流が実施できない。	滞在時間の制限や土日が休業日あることから、地域との交流の場が持てていない。	地域自治会・地域子ども会との関係性を構築し、関わりを増やしていく。